

【佳作】「特別な思い」

安城中部小学校 金村 優衣

給食は、私の、学校での楽しみの一つです。午前中、四時間目まで授業をがんばり、放課にたくさん遊んでおなががすいている時に、友達といっしょに食べる給食は最高です。給食が私にとって特別なものであるのは、ただ、給食がおいしいからといった理由だけではありません。

私には、苦手な給食のメニューがありました。朝、メニューを見て、

「ああ、今日は苦手なメニューだな。」

と、少し残念な気持ちになることがありました。特に、煮魚や魚のフライは苦手でした。けれども、そんな思いをふきとばしてくれるかのように、食べてみると、いろんな味付けがほどこされていました。そのちよつとの味付けのちがいで、苦手だったものが、こくふくできたのです。そして、それまでは気づくことのなかった、調理場の方の、調理の工夫に「ありがとう」という思いをもつようになりました。私たちが、少しでも食べやすいように、味付けや調理法を工夫して下さっている給食調理場の方の思いを感じることができました。

私は、給食への感謝の気持ちをもつようになり、給食委員にもなりました。給食委員の仕事は、各クラスの食器の片付けの状況をチェックしたり、残飯の状況

を調べたりします。できていないクラスには、注意の呼びかけをします。また、もりもりメニューなど、がんばって完食できているクラスにシールや賞を渡します。給食を食べた後に、重い食器のかごやワゴンを運ぶのは、少し大変ですが、担当の週は毎回しっかりやっています。私が、給食委員の仕事をがんばれるのも、給食の調理場の方が、毎日おいしい給食を届けてくれるから、私が、できることで感謝と、これからもよろしくお願いしますという気持ちを伝えられたら、と思うからです。

私にとって、給食は特別なものです。それに気づくことができたのも、給食調理場の方が、毎日心をこめて、おいしい給食をとどけてくださるからだと思います。そして、苦手だった給食をこくふくできたことと、給食委員の仕事を通して感謝の気持ちをもつことができたからだと思います。

今年度は、小学校生活最後の年になります。これからも給食をみんなといっしょに毎日楽しく食べ、給食委員の仕事にも全力で取り組みたいと思います。そして、給食の思い出も、この六年間の思い出の中にしっかりとぎざんでいきたいと思えます。